

こいた 小板まきばの里通信 Vol 10

～夏鳥の恋を応援しよう～

小板まきばの里へようこそ。小板まきばの里は西中国山地国定公園内の南に深入山、北に臥竜山で挟まれた標高750mの山里、小板集落の一角にあります。2018年11月にこの地に移住してきたスタッフ2名が60年以上前に住人がいなくなり荒地と化した耕作放棄地を、この土地の自然の恵みを活用しながら手作りで開拓しています。このキャンプ場ならではの豊かな自然と波乱万丈の開拓現場の探索をお楽しみください。

■キャンプ場周辺で初夏の植物を探索しよう！



ノアザミ



エゴノキ



ウツギ



ハルジオン



ササユリ



コアジサイ



ヤマボウシ



ヘビイチゴ



ヤブデマリ



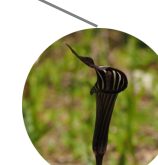
カンボク



ナワシロ
イチゴ



ハンカイソウ



マムングサ



セイヨウ
ミヤコグサ

■里山の自然観察 ～夏鳥の恋を応援しよう～

6月、キャンプ場周辺の緑は一雨ごとに濃くなって、夏が近いことを教えてくれます。そんな緑の山のあちこちから聞こえてくるのは夏鳥のホトギスの仲間たちの声。「カッコウ」と鳴くのは鳴き声そのまま名前になったカッコウ、「テッペンカケタカ」と聞こえる声で鳴くのはホトギス、「ポポン、ポポン」と紙筒をたたくような声で鳴くのがツツドリです。これらのホトギスの仲間の鳥は「托卵」をすることで有名です。「托卵」とはウグイス等の別の種類の鳥の巣に卵を産んで、卵をその鳥に育ててもらおうという習性のこと。托卵をする理由はよくわかっていませんが、ホトギスの仲間は体温が低くて卵を温めるのが苦手だからという説が有力なのだとか。恋の相手が見つかるまで一生懸命鳴き続ける夏鳥のオスたち、早く相手が見つかるように応援してあげましょう。